

## 社会福祉法人はぐくみ会 2024年度事業計画 年間総括

### はじめに

2024年度は、長い間中断していた行事や活動について感染防止対策との両立を模索しつつ、活動を再開した年となりました。規模を縮小しながら取り組んだものや取り組めなかった行事もありました。しかし、長い間開催を躊躇して完全に中断されていた諸行事が、試行的ながらも再開できました。これまでの長い停滞的状況から脱したことは、大きな変化と言えます。

加えて、長い空白にも関わらず、たくさんの地域の方々が「秋祭り」に参加していただけた事は、今後の取り組みにおいても地域の方々の協力に依拠しながら、発展させることができる可能性を示す明るい兆しとなりました。今後に向け、行事の再開を通して広く多くの地域の方と繋がることがもめられます。

しかし、一方で、2024度中に再開する予定であった「将来計画実現委員会」の活動が、年度内には再開することが出来ませんでした。業務の集中する管理職や役員が計画を担当していたため、他業務に追われ適切な時期に関係者に呼びかけられなかったことによります。役割を職員やその他の役員などに担ってもらうなど、実行可能な役割分担を行わなければなりません。地域での事業所不足がますます深刻化する傾向が明らかになり、「将来計画で実現委員会」の活動で具体的な地域の課題にしていくことが求められます。

2024年度の大きな出来事として、はぐくみ内部で初めて新型コロナウイルス感染症の感染拡大を経験しました。BCP（事業継続計画）については、作成が義務付けられ、はぐくみにおいても期限内に作成しました。「てびき」にも、絶えず継続的な検討と改良が必要とされています。今回のことも踏まえて、感染症対策だけでなく、自然災害、運営経営継続計画なども検討改良をしていきたいと思えます。その際は上記と同様に役員や管理職がいつまでも抱え込んでいるのではなく、担当職員担当部署に適切に任せるところは任せるとしていきます。そうすることによって、法人全体で課題の停滞を招くことなく、すべての課題としたことが滞りなく進行しているという状況を作り出していかなければなりません。

すべてのことが、役員管理職に留まらず、職員に広げる事、そして家族さん、後援会員さんさらに地域の方々へと協力の輪を広げる必要があります。

### ～当法人の理念～

障害者・家族・関係者の願いに基づき、障害の種別や程度にかかわらず、障害者が社会の一員としていきいきと生きるための労働と生活の場を保障し、併せて地域社会に根ざした社会的自立と福祉の向上を図る。

## II 障害福祉サービス事業（生活介護・就労継続支援 B 型・共同生活援助・短期入所）

### 1 事業概要

#### 【守山はぐくみ共同作業所】

2024 年度におきましては、4 月に生活介護の方が 1 名、7 月に 1 名入所され、10 月に就労継続支援 B 型の方が退所されたため、生活介護 14 名、就労継続支援 B 型 4 名の、計 18 名の方が利用されました。利用の実態として、スペース的なことやご本人の状況により、週 1 回の利用の方もおられます。ご本人の意思や状況が第一ですが、スペース的な問題で希望通りの通所ができないことは、事業所としての課題です。職員体制については生活介護では 1.5 : 1、就労継続支援 B 型では 6 : 1 の体制を整えられましたが、正規の職員の不足が続き、バタバタ感がありました。その中でも職員一人ひとりが利用者一人ひとりに寄り添ったり、支援について検討したりしながら関わってきました。作業を生活の中心に置きつつ、一人ひとりのペースを大切にしながら、余暇活動や生活を豊かにする活動も大切にしてきました。年齢的、身体的な所で、ウォーキングやゆっくりした時間も必要になってきている利用者の方もおられるため、一人ひとりに合った過ごしを考えながら実践しています。

年度途中で台風と新型コロナウイルス感染症の流行により閉所日が計 8 日ありました。利用者・職員・家族合わせて法人で 20 名以上の感染者が出たことは、今後の感染対策に繋げていかななくてはなりません。

#### ○ 障害種別ごとの人数

生活介護				就労継続支援 B 型			
知的	身体	精神	その他	知的	身体	精神	その他
8 人	5 人 (5 人)	0 人	1 人 (1 人)	4 人	0 人	0 人	0 人

- ・（ ）内は、重複の人数
- ・生活介護の内、常時車イスを利用している者は、5 名。また、外出時など一時的に車イスを利用している者は、1 名。
- ・生活介護の内、重心認定を受けている者は、3 名。
- ・行動点数が 10 点以上の方は 7 名。

○ 支援区分別の人数

生活介護						就労継続支援B型						
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
0人	0人	0人	1人 (7%)	5人 (36%)	8人 (57%)	0人	0人	1人 (25%)	3人 (75%)	0人	0人	0人

・（ ）内は、現員に対する割合。

○ 取組みと活動内容（感染症等の影響により実施出来ない場合もある）

	月	火	水	木	金	土
取 組 み	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園掃除</li> <li>下請け</li> <li>紙漉き</li> <li>リサイクル回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園掃除</li> <li>下請け</li> <li>紙漉き</li> <li>リサイクル回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園掃除</li> <li>リサイクル回収</li> <li>下請け</li> <li>納品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下請け</li> <li>紙漉き</li> <li>リサイクル回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル回収</li> <li>紙漉き</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回、草木染め（地域ボランティアさんと一緒に取組みます）</li> <li>製菓（パウンドケーキ、ラスク、焼きドーナツ）</li> <li>縫製</li> </ul>					
活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康チェック</li> <li>療育活動</li> <li>機能訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能訓練</li> <li>調理買い物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習</li> <li>機能訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リラックス</li> <li>掃除</li> <li>ウォーキング</li> </ul>	健康作り (月2回)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>お花見(4月)、バーベキュー(5月)、クリスマス会(12月)</li> <li>グループ外出、ボーナス外出</li> <li>余暇活動</li> <li>年に1回、利用者健康診断の実施</li> <li>年に1回、作業所旅行を計画（感染症等の感染状況に合わせて検討）</li> <li>月に1回、散髪ボランティア</li> </ul>					

【はぐくみホーム】

当施設は、日中サービス支援型共同生活援助及び短期入所併設となっております。定員は共同生活援助 13 名（男性棟 9 名、女子棟 4 名）短期入所 2 名（男性棟 1 名、女性棟 1 名）です。事業開始 3 年目においては、新たに 2 名（男性 1 名、女性 1 名）が 7 月より正式に入居され、男女共に満床となりました。

開所日については、365 日です。男性 1 名、女性 1 名の方は、全日利用です。また、男性 1 名の方が、年度後半から週末利用を増やされました。徐々に週末利用が増えている状況です。そのほかの方は、平日利用を継続されています。

2024 年度は、報酬改定に伴い 7.5 対 1 の体制を整え、人員配置体制加算を取得しました。実際には、利用者の方の実態に合わせた体制を整える必要があるため、必要人員以上の職員配置となっています。しかし、それでも曜日や時間帯によっては、体制不足という日もあります。また、これまでは、交流スペースで男性利用者、女性利用者が一緒に食事をしたりできていましたが、週末利用が増えてきた中で、そのような過ごしは難しくなりました。休日の職員体制が厳しくなっているのが現状です。重度の方が多いホームであることから、休日も職員体制をしっかりと整えていくということが引き続き課題とされます。

あと、高齢の利用者の方への支援について検討が必要としていた点については、今後の支援について確認する機会が持て、新たな支援を追加することができました。しかし、まだ課題は残されていますので、引き続き検討していければと思っております。

また、今後、高齢の利用者の方が増えていきますので、法人としてどのような支援をすべきかと、検討を重ねていく必要があります。

2025 年 6 月 1 日でホームが開所してちょうど 3 年となります。この 3 年間を一区切りとし、今後の支援や検討課題等を整理し、引き続き利用者の方が地域で安心して豊かな生活が送れるように取組んでいきたいと考えています。

また、併設しております短期入所については、新たに 2 名の入居者の受け入れに伴い、受け入れは出来ませんでした。2025 年度は受け入れが出来るように努めていきたいと考えております。

○ 障害種別ごとの人数

共同生活援助			
知的	身体	精神	その他
10 人	2 人 (2 人)	1 人 (1 人)	0 人

- ・ ( ) 内は、重複の人数
- ・ 常時車イスを利用している者は、2 名。
- ・ 重心認定を受けている者は、2 名。
- ・ 行動点数 10 点以上の者は、6 名。

○ 支援区分別の人数

共同生活援助					
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0人	0人	0人	5人 (39%)	2人 (15%)	6人 (46%)

・( )内は、現員に対する割合。

○ 職員体制（2025年3月末時点）26名

共同生活援助		短期入所	
管理者	1名（内兼務1名）	管理者	1名（内兼務1名）
サービス管理責任者	1名（内兼務1名）		
生活支援員	6名（内兼務5名）	生活支援員	1名（内兼務1名）
世話人	12名（内兼務3名）	世話人	1名（内兼務1名）
夜間従事者	15名（内兼務8名）	夜間従事者	2名（内兼務2名）
事務員	2名（内兼務2名）	事務員	2名（内兼務2名）

○ 1日の過ごし

時間	～7:30	7:30～ 9:30	9:30～ 15:30	15:30～ 15:45	16:00～ 17:30	17:30～ 19:00	19:00～ 21:00	22:00～
	夜間支援 起床	朝食 通所準備	作業所 通所 ホーム 日中活動	作業所よ り帰宅	入浴①	夕食 入浴②	自由時間 就寝 夜間支援	夜間支援

2 事業計画

項目	期間	事業内容	年間総括
<p>【共通事項】</p> <p>1. 仲間、一人ひとりの課題、ニーズに合わせた取組みを考える（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>(1) 仲間一人ひとりについて、職員は常に仲間への理解を深め、思いを汲み取りながら、毎日の取組みや活動を考えていく。理解を深めていくために、職員全体で情報共有していく。</p> <p>(2) 毎日の仲間の様子について、職員全体でしっかりと情報共有する。</p> <p>(3) 個別支援計画の内容をしっかりと把握し、支援のばらつきがないようにする。また、個別支援計画の内容を常に確認出来るような工夫。個人日誌は支援計画の内容に合わせて要点を絞り記録する。</p> <p>支援の内容が仲間に合ったものになっているか定期的に状況確認する場を設ける。</p> <p>(4) 職員は、常に仲間や家族の願いを汲み取り、今必要な支援、そして、将来を見据えて必要な支援は何かと積極的に論議をしていく。</p> <p>(5) 実践において、発達保障の視点を大切にし、仲間が働くことや生活の幅をひろげる、豊かにするといったことを職員で論議し深めていく。</p>	<p>(作業所)</p> <p>仲間の理解や思いの汲み取りについては、一人ひとりの職員が意識して取り組み、職員間で共有したり検討したりしてきた。</p> <p>情報共有について、意識して取り組んでいる。夕方には、いろいろな話をして共有する場面が増えている。</p> <p>6カ月毎の見直しと中間報告により、振り返りや共有ができ、具体的な支援について話し合うこともできた。しかし、職員間で仲間のことについて話し合う時間はもっと必要で、仲間の実践に関して話し合いを深めたり、実践報告レポートに繋げたりしていくことが課題である。</p> <p>毎日の記録に関して、支援計画や手順書に沿ってどうであったか、そして、仲間が今日一日、満足できたかどうか、やってみてどうだったか、という視点で記録を充実させていくことはまだ課題である。支援計画や手順書を確認しながら記録ができるように、手順書の様式を変え、確認して日誌が書けるようにしたが、意識をもっと高めていく必要がある。</p> <p>家族との関係づくりや懇談での聞き取りを丁寧に行なっているが、ちょっとしたことでも話してもらえるように引き続き、やりとりを丁寧にしていく必要がある。</p> <p>発達保障の視点を大切に取組み、職員で学習する機会はあるが、日々の実践と繋げながら論議したり実践を考えたりするには、まだまだ勉強していく必要がある。</p>

<p>2. 職員の 資質の向上 (継続)</p>	<p>年 間</p>	<p>(1) 職員の資質向上のため、年間計画をたて、研修に参加していく。また、支援に必要となってくる様々な研修についても、その都度、積極的に</p>	<p>(ホーム)</p> <p>仲間のことを知りたいという気持ちが高まってきたと感じる。気付きや〇〇の時はどう支援すればよい？など職員からの質問も増えてきた。そういった疑問などを職員全体で共有していけるように、共有方法なども考えいきたい。</p> <p>支援のバラつきについては、まず、その日の仲間の様子を共有出来ていないことが原因のひとつと考えられる。また、支援計画の内容や、会議で検討した内容を把握して支援ができるように、確認できる仕組みを検討する必要があると感じた。生活記録についても、抜け落ちがないようにするための改善策を検討するとともに、職員全体へ記録の重要性を周知する必要がある。</p> <p>この1年、懇談やその他で、ご家族の新たな不安や困りごとなどを聞く機会があった。今後、どのような支援が必要で、どのようなことが課題とされるかを整理し、積極的に検討していく場を設けることが大事かと感じている。</p> <p>また、仲間一人ひとりの生活を振り返り、どのようなことを求めておられるか、もっと話し合える時間を持ちたかった。次年度は、そういった機会が増やせるように会議など工夫をしていきたい。</p> <p>(作業所)</p> <p>計画に沿って研修に参加できた。所内研修で、支援のための研修（発達保障・虐待防止など）を実施でき、明</p>
----------------------------------	------------	--	--

		<p>参加していく。研修に参加した職員は他の職員にも内容を共有できるように研修報告をする。また、日々の実践につなげていけるよう論議を深めていく。</p> <p>(2) 仲間の話しを積極的にし、日々の実践について振り返りや悩み、疑問を出し合い論議をしていく。また、実践のまとめとしてレポートを書き、それをもとに職員で論議する機会を設ける。</p> <p>(3) 仲間や家族の方、また地域の方からの苦情や要望を第三者委員へ報告し(年2回)、助言等をいただき職員の資質の向上とより良い実践に繋げていく。</p> <p>(4) 報告、連絡、相談を定着させる。(定着させるための工夫をおこなう。やり取りはメモで) 情報共有の仕方について、それぞれの事業所に合わせた仕組みを作る。</p> <p>(5) 実践を充実させていくためにも、職員のチームワーク力を高めていく。職員間の連携強化をめざす。</p> <p>職員一人ひとりが、周りを見て状況判断が出来る力を身につける。また、〇〇しながら△△出来る力を身につける。あと、職員集団として、また職員個人としてどれだけの力をつけることが出来たかを各自で振り返る機会を設ける。</p>	<p>日からの実践に生かせることもあった。研修内容をすべての職員で共有できるように報告や資料も回覧しているが、資料については抜けていることもあったため、報告とともに資料を出してもらう必要がある。</p> <p>実践レポートを書くことについても少しずつ取組み、職員の力や仲間にとってのより良い支援にも繋げていけるようにしていくことが課題である。</p> <p>連携の部分では、職員間で声をかけ合うことを意識してできてきている。状況判断については、忙しい中で正しい判断をすることや、自分以外の職員の状態を予測してフォローすることなど、引き続きの課題である。一人ひとりの守備範囲を広げることも引き続きの課題である。</p> <p>第三者委員会の内容や助言を職員間で論議し、できることから取組んできた。仲間にとっても職員にとっても過ごしやすい、働きやすい場となるように、毎日の取り組みや職務の見直しなどを行っていくことは課題である。商品に関する苦情もあったため、複数確認や担当ともう一人確認する職員を決める工夫を徹底していく必要がある。</p> <p>職員がどれだけの力をつけられたかの振り返りについては、面談でしている。職員間での関係づくりについては、馴れ合いではなく、信頼し合って話せる関係づくりが、引き続きの課題である。</p> <p>ホームのことを知ったり、職員同士の繋がりも作ったりすることで、日々の連携にも繋げていけるようにしたい。</p>
--	--	---	--

<p>3. 感染予防に努める (新規)</p>	<p>年 間</p>	<p>(1) 新型コロナウイルスやインフルエンザなど、感染症対策を徹底して行い、仲間が安心して過ごせるようにする。マスク・手洗い・消毒を徹底</p>	<p>(ホーム)</p> <p>研修については、職員体制上、厳しいところもあったが、きょうされんの全国大会やその他いくつかの研修に参加することは出来た。</p> <p>次年度は、他の事業所と交流の機会をもち、悩んでいることなど意見交換していきたい。</p> <p>また、職員会議で仲間の様子を報告し合ったり支援について話し合うことができてよかった。今後は、次に繋げるためにも実践報告レポートを書き、さらに振り返りと意見交換できる機会をつくっていきたい。</p> <p>事故や苦情、虐待防止や身体拘束については、毎月の職員会議で確認し合う機会がもてた。また第三者委員の方からのアドバイスもいただきながら、この1年も取組んでこれたことはよかった。ヒヤリハットについても報告が増えてきた。その報告を活かして、怪我や事故に対する意識をより高めていけるように取組んでいくことが大切。</p> <p>ホームでは24時間を職員みんなで繋いで支援をおこなっていくという意識をもち取組んできたが、連携が不十分なこともあったように感じている。より一層、チームワーク力を高めるためには、職員同士でもっと声を掛け合い、確認作業や、伝言板の活用など検討が必要だと感じている。</p> <p>(作業所)</p> <p>2024年度は1月に新型コロナウイルス感染症が広がり、7日間閉所することになった。感染対策とともに、</p>
-----------------------------	------------	--	---

<p>4. 災害時に備える (新規)</p>	<p>年間</p>	<p>し、日常化する。また、マスクなどの感染予防が苦手な仲間もいる中で、職員が意識して、パーテーションの利用や丁寧な手指の消毒などを行う。</p> <p>(1) 火災、水災、震災時を想定し、訓練をおこなう。緊急時に混乱しないように定期的に緊急対応の確認をしていく。</p> <p>(2) 非常食や備品等に不備がないか確認をする。</p>	<p>どんな状況で、どう動くのかを具体的に検討しておく必要がある。感染対策の徹底、消毒のチェックリスト・来客確認票、外出後や外での消毒の徹底、塗り込むことの徹底も、引き続き意識して継続していく必要がある。また、基本的な感染対策は続けていくことを定期的に職員で共有し意識していく必要がある。</p> <p>(ホーム)</p> <p>予防対策は手洗い、消毒などは定着しており、感染への意識もしているつもりではあったが、1月20日に1名の利用者が新型コロナウイルス陽性となった。隔離にて対応し、他の利用者との接点はほぼないという状況にもかかわらず、その後、次々と感染が広がる状況となってしまった。男性棟、ほとんどの利用者が陽性。職員も感染し、女性棟の数名にも感染した。また、早めに帰省された利用者が陽性となりご家族へも感染が広がる状況となってしまった。対応としてそれでよかったかどうか、今後に繋げるためにもしっかりと対策を検討しておく必要がある。また、嘔吐時など対応に関するマニュアルファイルをキーパー室等におくことも必要。</p> <p>(作業所)</p> <p>年2回の避難訓練を実施したが、具体的な想定をした訓練ができていないため、職員で話し合っ必要がある。</p> <p>事業継続計画（BCP）を活用しながら、より具体的な想定をして組み込んでいくこともできていないため、取</p>
----------------------------	-----------	--	---

<p>【守山はぐくみ共同作業所】</p> <p>1.就労支援事業の収支について、収入増を目指す（継続）</p>	<p>年 間</p>	<p>(1) 毎月の取組みとして、グループ分けをし、仲間一人ひとりに合わせた内容で、一ヶ月の頑張りを伝え合い、作業への期待や意欲に繋がるよう、お給料の話しをしていく。また、より一層、仲間にとって伝わりやすい方法も模索しながら取組んでいき、その都度、振り返りもおこなっていく。</p> <p>(2) 年間計画をたて、やりきる意識を持ち取組んでいく。また、年間の収入見込みと、毎月の収支を確認し、意識しながら取組む。2ヶ月ごとに計画の進み具合を確認し、状況に応じて修正と対応策を検討する。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染状況によっては収入に</p>	<p>り組む必要がある。</p> <p>(ホーム)</p> <p>年2回の避難訓練はおこなったが、色々な状況を想定した訓練は出来ていない。今後は、そういったことを想定した訓練をおこなっていくことと、救命救急講習もおこなっていくようにする。</p> <p>また、災害時に備えて、非常食の使い方や備品が不足していないかなど、十分に取組めていなかった。計画的に取組めるような仕組みを検討する必要がある。</p> <p>あと、事業継続計画（BCP）をより活用しやすいものにしていく必要がある。職員で検討し合う機会を定期的にしていく必要があると感じた。</p> <p>(1～4)</p> <p>仲間一人ひとりに合った「お給料の話」の仕方や一日一日の達成感を感じてもらえるような工夫について、意識して取り組んできた。ボーナスの話し合いがもっと充実するように職員が意識して仲間に投げかけていくことも課題である。</p> <p>新商品など、担当を中心に、また仲間を巻き込んで、いろいろなアイデアを出し合っていくことを大切に</p> <p>新たな収入については、これ以上作業を増やすことは難しくなっている。今ある作業の中での工夫や、仲間が楽しんだり達成感に繋がったりする方法を探っていくことが必要である。どの作業もどの職員もできるように</p>
---	------------	---	---

<p>2. 仲間が安心して、安全に健康的に過ごせるように、環境を整える(継続)</p>	<p>年 間</p>	<p>大きく影響が出るため、今、取組んでいる作業に加え収入増につながる工夫をする。また、新たに収入増につながるものはないかと、情報収集もおこない積極的に意見を出し合い検討していく。</p> <p>(4) 収支だけにとらわれるのではなく、職員は仲間が働くということや、仲間のお給料についての論議も深めていく。(『仲間一人ひとりの働く』を考える)</p> <p>(1) 所内の環境を整える。整理整頓を心がけ、刺激がしんどい仲間の方に合わせて、気になる物などをできる限り見えない所に置くようにする。</p> <p>(2) 朝の会や帰りの会など、一人ひとりに合わせてできるように、必要な絵カードや提示の仕方を考える。</p> <p>(3) 日頃から危ない所がないか、職員一人ひとりが気に向け、ヒヤリハットを活用し、改善する。</p> <p>(4) 仲間一人ひとりの状態に合わせた機能訓練や取り組みについて、日々話し合い、専門家の意見も取り入れながら、主体的に活動できる環境を作れるように努める。</p>	<p>していくこともまだ課題である。</p> <p>一人ひとりの仲間にとっての働くことについて、まだ全員のことが話し合えておらず、新しい職員も増えたため、継続していくことが必要である。毎日仲間の方のように話し寄り添っていくことで達成感に繋がられるかなど、実践に生かせるよう深めていくことが必要である。</p> <p>(1～3)</p> <p>整理整頓の意識はもっているが、仲間にとってわかりやすく心地よい環境にしていくことが引き続きの課題である。</p> <p>黒板の整理と、一人ひとりに応じたスケジュールボードの作成などもやりきれていないので、しっかり取り組んでいく必要がある。</p> <p>ヒヤリハットについては、少しずつ書く意識が高まっている。書くことで、共有して事故を防ぐことができるもの、という意識で取り組んでいく必要がある。また、定期的にまとめて振り返り検討することが必要である。</p> <p>(4) については、取り組んでいるが、職員によって違うこともまだあるため、機能訓練のファイルを共有・修正している。県リハ・巡回訪問のアドバイスも意識して取り組んでいるが、職員全員が意識できるよう、継続していく必要がある。</p>
---	------------	---	---

<p>【はぐくみホーム】</p> <p>1. 安心、安全で自分らしく生活出来るよう、仲間一人ひとりについて理解を深める（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>(1) 新たに入居される仲間の方については、ホームに慣れていけるように生活リズムや生活スタイルを理解する。2年目、3年目の仲間の方については、より一層、思いを汲み取る。理解を深めていく。</p> <p>(2) 仲間への理解を深めていくためにも、生活記録（日誌）を丁寧に残し、振り返りが出来るようにしておく。また、毎日の記録に目を通して仲間の様子を共有し、支援のバラつきにならないようにする。</p> <p>(3) 仲間一人ひとりがホームの生活に満足出来ているか職員で話し合っていく。</p>	<p>(1) 7月より新たに2名の入居者を迎え男女ともに満床となった。新しい仲間を迎えたことで、仲間全体の生活リズムを検討しながら、この1年過ごしてきた。はじめの数ヶ月は、試行錯誤しながらであったが、現在は、生活リズムも整いつつある。今後は、今まで以上に仲間のことを知り、心地よく過ごせるように、また、満足されているか感じ取り、職員で共有していきたい。</p> <p>(2) 生活記録については、抜け落ちがある。24時間を職員で繋いで支援をしていくためには生活記録は重要なものであるということを定期的に周知する必要があると感じた。また、記録の内容についても、記録する職員で温度差があるため、どのあたりをポイントに記録するのかなど周知する必要がある。</p> <p>(3) ホームでの生活が安心、安全で過ごせるように心がけてきたが、防犯への意識が薄れている場面もあった。また、高齢の仲間の急変も数回あり、救急搬送となった。仲間の高齢化についても引き続き支援内容など検討すべき課題だと考える。</p>
<p>2. 日中活動が充実するよう、仲間に合わせて活動内容の実施（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>(1) 日中、ホームで過ごす仲間が安心して心地よく過ごせる環境を整える。</p> <p>(2) 仲間一人ひとりについて、その日に合った活動を考える。(散歩、音楽鑑賞など)</p>	<p>(1～2)平日、日中をホームで過ごす仲間の方は、ゆったりペースで過ごすことが好ましい仲間の方が多い。仲間それぞれで過ごし方が定着しつつある。また、仲間同士の新たな関係も深まる機会になっ</p>

<p>3. 通所事業等、関係機関と連携し仲間の様子に合わせた支援を行う（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>(3) 季節の行事なども取り入れ、楽しみに感じられる活動にする。</p> <p>(1) その日に合わせた支援が出来るように、作業所等を利用する仲間については、日中の様子を把握出来るように事業所と連携する。</p> <p>(2) 定期的にケース会議などを通じて関係機関、関係事業所と仲間の様子を共有し、必要な支援をおこなっていけるように連携をしていく</p>	<p>た。あと、過ごしの中で、外活動を取り入れたいこともあったが、体制が不十分ということで活動が制限されてしまった。長期休暇中は職員体制が通常より更に厳しいため、外出することは難しかった。</p> <p>(3) 季節の行事ごとなど、ホーム全体でおこなうことは難しかった。男性棟と女性棟でそれぞれでということになってしまう。また、体制的なことも検討が必要だと感じた。今後、どのような形でイベントをし、楽しんでもらえるか工夫をしていきたい。</p> <p>(1) 事業所との引継ぎについては、時々、漏れはあるが、伝え忘れが少なくなってきたと感じる。伝え忘れはないかと意識をしながら今後もより丁寧な引き継ぎと情報共有をおこなっていきたい。</p> <p>(2) 関係機関との連携については、定期的なケース会議がある仲間の方は、情報共有が出来た。会議等がない方や、支援者の変更などに積極的にこちらから発信できなかった。定期的に関係機関と情報共有が出来ているか、確認する機会を設定すべきだと考えている。</p>
<p>4. 緊急時の宿泊の場、またレスパイトとして短期入所の受け入れをす</p>	<p>年間</p>	<p>(1) 受入れについては、入居者の状況、職員体制等に合わせて受け入れていく。</p> <p>(2) 緊急時等の対応など、可能な範囲で受止めが出来るよう努める。</p>	<p>(1～2) 短期入所の受け入れは、積極的な取組みが出来なかった。2025年度は、少しずつ受け入れを進めていけるように職員間で検討していきたいと考える。</p>

<p>る（継続）</p> <p>5. 地域の方とのふれあいを通じて安定した生活をめざす（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>（1）地域の方に、当法人とホームのことを知っていただける機会をつくる。（行事ごと、定期通信など）</p>	<p>（1）年度当初に通信を発行していく案をだしていたが、出来ていない。取組めなかった原因を探り次に繋げていく必要がある。また、2025年度からは、地域連携推進会議が義務化されるため、地域の方とのつながりが作れるように取組んでいくことが課題である。</p>
---	-----------	---	--

【2024年度(2024年4月～2025年3月) 事業実績 守山はぐくみ共同作業所】

○ 年間開所日数及び1日平均利用者数

	今年度		前年度		前年度比	
	開所日数	平均利用者数	開所日数	平均利用者数	開所日数	平均利用者数
生活介護	252日	10.7人	255日	10.2人	-3日	+0.5人
就労継続支援B型	252日	2.6人	255日	3.1人	-3日	-0.5人
合計		13.3人		13.3人		±0

○ 職員体制 (2025年3月末時点)

生活介護		就労継続支援B型	
管理者	1名 (内兼務1名)	管理者	1名 (内兼務1名)
サービス管理責任者	1名 (内兼務1名)	サービス管理責任者	1名 (内兼務1名)
生活支援員	9名 (内兼務3名)	職業指導員	1名
看護職員	2名	生活支援員	1名 (内兼務1名)
調理員	1名 (内兼務1名)	調理員	1名 (内兼務1名)
事務員	2名 (内兼務2名)	事務員	2名 (内兼務2名)

○ 入退所者数

	定員	入所者数	退所者数	現員 (3月末)	昨年比
生活介護	10	2	0	14	+2
就労継続支援B型	10	0	1	4	-1
合計	20	2	1	18	+1

○ 事故報告について

	件数	前年度比	内容	行政への報告等
活動中の大怪我(病院搬送)	0件	-1		
活動中の怪我(軽微なもの)	13件	-4	・足元が不安定な方の転倒・発作後少ししてから転倒・車内から鞆に手を伸ばして転倒：6件 ・火傷の恐れ：1件 ・ソファで寝ていて発作により転落：1件 ・仲間同士の接触：2件 ・仲間と職員の接触(ぶつかる)：2件 仲間と机の下のネジの接触：1件	なし
活動中の車両事故(物損)	2件	-3	・リーフマンションのポールにバックでの接触：1件 ・作業所から出る際後方の職員の車両にバックでの接触：1件	なし
活動中の車両事故(人身)	0件	±0		
送迎中の車両事故(物損)	0件	±0		
送迎中の車両事故(人身)	0件	±0		
火事・災害等による怪我	0件	±0		
食中毒の発生	0件	±0		
服薬に関するもの	1件	±0	・与薬忘れ	なし
個人情報に関するもの	1件	±0	・2名の利用者の方の連絡帳の入れ間違い：1件	なし
事故として捉えるべきもの	0件	-1		
合計	17件	-9		

【今後に向けて】・環境による対策・検討(危険個所の共有や、危険を除ける所は除く意識)

- ・活動中の仲間の見守り時の離れる時の判断や職員間で声をかけ合う等連携の強化。
- ・車両事故については、運転者の意識強化、危険かどうかの判断。添乗者と2人の目で確認することの徹底。
- ・運行前後点検の継続。(具体的なマニュアルの定期的な確認)
- ・個人情報の取り扱いの意識強化。
- ・本人さん理解を深め、行動の予測や接触時のシュミレーションなど、事故を振り返り職員全員で考え合う。
- ・事故レベルを整理し、報告の取り扱いを明確にしておく必要がある。(行政への報告など)

○ 苦情解決について

(苦情受付件数と内容)

	件数	前年度比		第3者委員による解決
身体介助（衣服）に関するもの	1件	+1	・足の装具の止め方が間違えたまま帰ってきた	
身体の異常（怪我）に関するもの	0件	±0		
介助に関するもの	0件	-2		
施設環境に関するもの	0件	±0		
活動内容に関するもの	0件	-1		
利用者の様子に関するもの	0件	±0		
利用者の持ち物に関するもの	0件	-1		
利用者の処遇に関するもの	1件	+1	・ホームに送る方を自宅に送ってしまった	
運転に関するもの	0件	±0		
家族の方に関するもの	1件	-1	・集金袋に間違えた金額が記載されていた	
地域の方からに関するもの	2件	-2	・署名を電話しなくても取りに来てほしかった ・注文していた商品がまだできておらず、届けてもらうことになった	
合 計	5件	-5		

【今後に向けて】・担当職員の確認意識の強化。(職員同士での共有・2人の職員での確認・共有)

- ・業務内容についての意識の強化と確認の徹底。
- ・職員の連携強化。ホームと作業所の連携強化。
- ・第三者委員による解決が必要な内容等を明確にしておく必要がある。

○虐待防止対応について

(虐待受付件数と対応)

	件数		内、虐待防止センター等への通報件数
所内における身体的虐待	0件	±0	0件
所内におけるネグレクト	0件	±0	0件
所内における心理的虐待	0件	±0	0件
所内における性的虐待	0件	±0	0件
所内における経済的虐待	0件	±0	0件
合 計	0件	±0	0件

【今後に向けて】・虐待防止、人権への意識を常に持つ取組みをおこなう。

- ・年2回、所内研修をおこない、虐待チェックリストなど活用して日々を振り返り虐待防止への意識を強化。
- ・実際にあったことを振り返り、職員間での話し合いを深める…日々の中で虐待になりかねないことを出し合い、意識を高め合う。

○身体拘束について

利用者対応に関するもの	7	パニックになった際のクールダウン(車・休養室いずれも施錠なし)
身体拘束に繋がりにかねないもの		発作時のけが防止のために座ってもらう声かけ 静かな場所を求めて車に乗られる仲間へのシートベルトや施錠

※上記内容については、個別支援計画に明記し、家族に説明をしている。また、パニック時のクールダウンに関しては、身体拘束記録ノートに記載し、家族へも伝えている。

※身体拘束の適正化に関して、職員で話し合いを行なう中で、身体拘束に繋がりにかねないものについて意見がたくさん出たため、環境面や声かけの工夫で改善できることについても深めていけるようにしていく必要がある。

【今後に向けて】・パニックに繋がらない関わりの模索や検討・共有

- ・クールダウンしてもらう空間の工夫(クッションなどを置いて居心地のいい空間にするなど)
- ・環境面や声かけの工夫など、できることから話し合って検討していく。

【2024年度（2024年4月～2025年3月）事業実績 はぐくみホーム】

○4月～3月開所日数及び1日平均利用者数

	今年度		前年度		前年度比	
	開所日数	平均利用者数	開所日数	平均利用者数	開所日数	平均利用者数
共同生活援助	365日	8.8人	366日	7.2人	-1日	+1.6人
短期入所	0日	0人	0日	0人	±0日	±0人

○入退所者数（2024年7月より2名入居）

	定員	入居者数	退所者数	現員(3月末)	昨年度比
共同生活援助	13	2	0	13	+2
合計	13	2	0	13	+2

	定員	利用者数	利用者数合計	昨年度比
短期入所	2	0	0	±0
合計	2	0	0	±0

○職員体制（2025年3月末時点）26名(前年度比 +3名)

共同生活援助		短期入所	
管理者	1名（内兼務1名）	管理者	1名（内兼務1名）
サービス管理責任者	1名		
生活支援員	6名（内兼務5名）	生活支援員	1名（内兼務1名）
世話人	12名（内兼務3名）	世話人	1名（内兼務1名）
夜間従事者	15名（内兼務8名）	夜間従事者	2名（内兼務2名）
事務員	2名（内兼務2名）	事務員	2名（内兼務2名）

○事故報告について

	今年度	前年度比	内 容	行政への報告
入居者の大怪我（病院搬送）	0 件	-1		なし
入居者の急変	3 件	+2	・体調不良により救急搬送	
	今年度	前年度比	内 容	行政への報告
入居者の怪我（軽微なもの）	4 件	±0	・椅子から転倒。特に怪我はなし。 ・転倒。（てんかん発作時、支援中。） ・痣ができていた。	なし
入居者の事故（物損）	0 件	±0		なし
服薬に関するもの	3 件	-1	・誤薬（夕食後と朝食後を間違える） ・服薬準備の確認もれ ・服薬忘れ。	なし
火事・災害等による怪我	0 件	±0		なし
食中毒の発生	0 件	±0		なし
その他①（利用者）	1 件	±0	・飲酒。	なし
その他②（職員）	2 件	+1	・ギックリ腰。 ・鍵、紛失。	なし
合 計	13 件	+1		

- 【今後に向けて】
- ・服薬管理の徹底（二重チェックをおこなう。視覚的にもわかりやすくする。）
  - ・利用者さんの動きを予測して見守りをする。
  - ・急変に備えて、緊急対応の訓練。救命救急法の講習。
  - ・ヒヤリハットの活用。
  - ・事故レベルの基準となるものを作成出来ていないため、引き続き取り組む。

○苦情解決について

(苦情受付件数と内容)

	今年度	前年度比	内 容	第三者委員による解決
身体介助（衣服）に関するもの	6 件	+4	・季節の変わり目は気にかけてほしい。 ・前後が逆になっていた。 ・他の利用者のものを着て帰ってきた。	
身体の異常（怪我）に関するもの	1 件	+1	・湿疹が出来ていた。塗布してほしい。	
	今年度	前年度比	内 容	第三者委員による解決
仲間の支援に関するもの	4 件	+3	・食事形態や生活リズムについて、誤解を招いた。 ・歯磨き支援をしてもらいたい。（仕上げ磨きが職員で確認出来ていなかった。	
施設環境に関するもの	0 件	±0		
活動内容に関するもの	0 件	±0		
利用者の持ち物に関するもの	0 件	±0		
サービス利用に関するもの	1 件	+1	・感染症などの際に、利用が出来ず困った。	
地域の方からに関するもの	0 件	±0		
合 計	12 件	+9		

- 【今後に向けて】
- ・衣類間違えについては、洗濯後の仕分け作業の改善。利用者の名前を確認する工程を増やす。
  - ・仲間に伝える際は、わかりやすく一人ひとりに合わせた支援をおこなう。
  - ・支援については、職員間でバラツキがないように職員同士で声をかけ合えるようにする。
  - ・感染については、様々な状況を想定し、対策を検討していく。      ・ご家族から要望などを伝えやすい仕組みを検討する。

○虐待防止対応について

(虐待受付件数と対応)

	件数	前年度比	内、虐待防止センター等への通報件数
所内における身体的虐待	0件	±0	0件
所内におけるネグレクト	0件	±0	0件
所内における心理的虐待	0件	-1	0件
所内における性的虐待	0件	±0	0件
所内における経済的虐待	0件	±0	0件
合 計	0件	-1	0件

【今後に向けて】 ・人権、虐待研修を定期的におこない、職員集団として、また職員個人として振り返りをし、意識する機会を設ける。  
また、毎月の職員会議でも振り返り、支援の確認をおこなっていく。仲間の意思を汲み取り支援をおこなっていく。

○身体拘束について

▶身体拘束にあたるであろう内容については、身体拘束記録表に記録。

《記録の内容》

	件数	前年度比	内 容	備 考
全体としての安全面によるもの	常時		・男性棟、女性棟の出入口は安全確保のため施錠。	
ケガ、事故防止によるもの	9件	-15	・男性棟については、早朝の失禁等の介助中、職員体制が不足していることから、他の利用者が起きてこられて就寝中の利用者の居室に入り、接触による怪我等を防ぐため、就寝中の利用者の居室を数分間、施錠し怪我、事故防止をおこなった。	・7月以降、夜間従事者を2名から3名に増やしたことで、居室に施錠対応は改善された。
利用者対応によるもの	5件	-8	・利用者のパニック対応のため、居室に入ってもらいドアを閉め、落ち着けるようにした。(施錠はしない)	
感染対策によるもの	1件	+1	・新型コロナウイルス陽性となった利用者到他の方へうつしてしまうから食堂には来ないように伝えるが、来てしまうため、廊下の途中より障害物を置き、来ないように対策した。	
	15件	-22		

- 【今後に向けて】
- ・人権、虐待防止および身体拘束研修を定期的におこない振り返る機会を継続する。毎月の職員会議でも支援の確認や意見交換できるようにする。
  - ・身体拘束をしない支援を職員で考えていく。
  - ・個別支援計画のモニタリングの際には、半年間の振り返りをおこなう。また、次の個別支援計画には、身体拘束にあたる内容を記載し、ご本人もしくはご家族に丁寧に説明をおこない承諾をいただく。

### Ⅲ 公益事業 事業計画

項目	期間	事業内容	年間総括
1 主たる介護者のレスパイトや緊急時の対応のための支援	年間	<p>(1) 主たる介護者のレスパイトや作業所での支援時間帯以外に起こった本人や家族の方の緊急時の対応をすることで障害のある人やその家族の安心した生活が営めるよう日中一時支援事業を行う。</p> <p>(2) 開所曜日、開所時間については、月火水金の 15:30~18:00（土日については、要相談）とする。 緊急時の対応についての検討。</p> <p>(3) 利用時の支援の内容については、仲間が満足できるように考えていく。また、利用についての感想やニーズは今後も聞き取っていき、より良い事業にしていく。</p>	<p>・生活介護の方は開所日は利用時間を延長して対応していることもあり、利用はなかった。しかし土日祝日の利用の可能性や就労継続支援 B 型の方もおられるため、引き続き利用してもらいやすい環境づくりをし、懇談の時などにも伝えていく。</p> <p>・利用についてのニーズは、具体的な要望等はなかったが、引き続きニーズの把握はしていく。</p> <p>・事業申請で出している範囲内では外に出る活動も必要に応じて入れていくが、事故などがないように十分に気をつけていくことが必須である。</p>

<p>2 余暇に対する支援</p>	<p>年4回 ～6回</p>	<p>(1) 障害のある方の休日の過ごしを充実させることを目的とし、「はぐくみ良か余暇支援活動」を年4回～6回の実施を予定するが、<u>感染症等の影響もあるため、ボランティアさんの参加や活動内容等は状況をみながら検討し、工夫をして取り組んでいく。</u></p> <p>(2) 参加される方が、四季を感じたり、色々な体験ができたり、自分たちが住んでいる滋賀の魅力が発見できる機会、また、ボランティアさんを通じて、人とのふれ合いを感じられるような活動とする。</p> <p>活動資金作りについては、滋賀県共同募金会のつかいみちを選べる募金にエントリーし、次年度の活動資金の確保に努める。</p>	<p>・感染対策を徹底した上で、外に出かける活動ができた。平日に日帰り旅行に行ったり、ボランティアさんと関わったりと、仲間が楽しんだり様々なことを経験したりできたことはよかった。ただ参加してもらおうボランティアさんが限られてきているので、再度ボランティアさんの募集をしていくことも必要である。</p> <p>・家族さんや地域の方など、たくさんの方の理解や協力があり、2025年度の資金もたくさん集めることができた。今後についても必要な活動であるということを丁寧に伝えていきながら、お礼状や報告や写真など丁寧にしていき、取り組んでいくことが大切である。</p> <p>・滋賀県共同募金会の募金の方法の幅が広がるという話をいただいているので、そこにも対応していく必要がある。</p>
-------------------	--------------------	--	---

#### IV 将来計画に関連する事業

##### 1 事業概要

グループホームは、3年目で共同生活援助が満床となりました。夜勤者を中心に職員の数も徐々に増えてきています。今後、一定した段階で安定した支援に必要な職員数と安定した経営継続のための予算を見ていく時期も来ると思います。次には引き続きニーズがあることから、短期入所の開始が求められます。しかし、共同生活援助を支えるための職員数の確保にも苦労したことから、短期入所にかかる職員の確保にはさらに努力を要することが予想されます。

作業所は、定員には達していませんが、一人あとひとりと受け止め、ついにスペース的に受け入れられない状態になりました。作業所拡大に向けた「将来計画実現委員会」の年度内再開は、できませんでした。同時に法人独自の取り組みとして、土地、建物の購入、借用について行政、民間を含め、物件探しや協力依頼を行ってきましたが、多くの協力を得られるようになってきましたが、まだまだ、具体的な成果にはつながっていません。

##### 2 事業計画

項目	期間	事業内容	年間総括
1 将来を担う職員の人材育成に取り組む。	前期	(1) はぐくみの歴史と理念の振り返りを丁寧に行い、将来像を描く。職員を主体に家族さんや関係者の協力を得ながら、学び、まとめる。	(1) (2) はぐくみの歴史と理念の学習を行い、将来計画への見通しも持つことは一定できた。その後の職員が役割を分担して「はぐくみ 30 周年記念」や「第 2 期将来計画」に取り組んで行くことについては、取り組みは始めているが提起が遅く遅れた分、後半の取り組みとなり次年度へ引き継ぐ課題も多い。計画はされているので確実に実施して行く。
	後期	(2) 職員の学びをもとに理事会で第 2 期将来計画を検討する。	
2 第 2 期将来計画の策定	年間	(1) 第 2 期将来計画実現委員会を設置し、計画の具体化のための取り組みを検討する。  (2) 計画の策定や実現の為に、県市や地域の諸団体などと課題について共有できるように働きかける。地域	(1) 第 2 期将来計画実現委員会の計画は後期に巻き返してきた。今後具体的に広く提起し、実施して行く必要がある。  (2) 諸団体への働きかけも一定行うことができた。今後当事者団体との打ち合わせにより、将来計画実現委員会を早期に開催する必要がある。

3 資金をはじめとする条件作りの取り組み	後援会 総会以降	<p>の諸団体や圏域や市の自立支援協議会に積極的に参加し、情報の共有に努める。</p> <p>(1) 後援会に行事の協力と寄付だけでなく、将来計画に積極的に関わってもらおう。</p> <p>(2) 新たな事業実施に必要な資金をはじめ、土地や建物について、後援会とも連携しながら積極的に取り組む。</p>	<p>圏域や市の自立支援協議会に積極的に参加し、情報の共有に努めた。さらに積極的に状況と課題の理解の共有を訴えた。</p> <p>(1) (2) 後援会総会にて将来計画への積極的な協力を訴えたところ、早々に空き施設の紹介をいただくことができた。加えて、その後も情報をいただいたり、話を聞いていただけたりしている。今後も継続的に力を入れていかなければならない。</p>
----------------------	-------------	---	---

## V 地域との連携や地域貢献

### 1 事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響により長い間、開催ができなかった行事を小規模ながら再開できたことは、積極的かつ大きな第1歩となりました。心配されていた地域との繋がりについて、長いブランクにも関わらず、地域との繋がりが維持できていたと思われまます。今後、そこに依拠しながらも早急にさらなる発展的取り組みが求められます。とくに将来計画実現委員会の取り組みにも繋げられるように取り組んでいく事が大切だと思われまます。

### 2 事業計画

項目	期間	事業内容	年間総括
1 地域の方々に応援していただくための取り組み(継続)	6月頃 年間	<p>(1) 後援会の時期に合わせて地域の方、ボランティアの方々と前述した内容を検討する。</p> <p>(2) 事業所の活動に対するボランティアの受け入れ。</p> <p>(3) アルミ缶・段ボール回収に対する協力依頼。</p>	<p>(1) 前述のとおり依頼しその報告で進行している。</p> <p>(2) ボランティアさんの受け入れは、以前から一足早く、再開している。少人数に分かれ、今</p>

<p>2 地域貢献のための取り組み (継続)</p>	<p>年 間</p>	<p>(4) きょうされんの署名活動などを通じて作業所や障害のある人たちのことを知っていただく。</p> <p>(1) グループホームと地域の連携交流を進める。 ホームの2階部分を災害時の「福祉避難所」として、活用方法の具体化と施設の充実に市の担当課とも協力して取り組んでいく。</p>	<p>後も感染対策を継続しつつ取り組む。</p> <p>(3) アルミ缶・段ボール回収は、ガソリン代や取り組みの体制や時間なども必要であるが、仲間と地域の人たちの繋がりを大切にするために可能な範囲で継続していきたい。</p> <p>(4) きょうされんの署名や物資斡旋は、作業所や障害のある人たちのことを知っていただく貴重な機会となっているので、今後も積極的に継続していきたい。</p> <p>(1) グループホームと地域の連携については、「地域連携推進会議」の義務化を意識しながら、地域における他の施設にも声をかけ共同で自治会に「地域連携推進会議」の申し入れを行い計画することができた。</p>
--------------------------------	------------	---	--